第五講　論理的文章の読解④

Step 1

一　次の文章を読んで、1〜7の問いに答えなさい。（1〜13は、それぞれ段落を示す番号である。）

1　日本人の伝統的な文化観に「見立て」がある。日本人は、この見立てという比喩（ひゆ）的な美意識が好きである。

2　①見立てとは、あるものを別のものになぞらえることである。つまり、ある状況を、それとは別の状況や物事の様子からa見て取ることである。日本文化には、この見立ての表現が、②多岐にわたって存在する。

3　例えば、日本独自の造園に枯山水（かれさんすい）がある。植物や水を一切b用いず、石や砂だけで自然を表現する。ここでは、石は山を表し、砂や小石は大海原を表現する。［A］、落語では、噺家（はなしか）が手ぬぐい一本を用いて様々な情景を表現し、客もこれを想像しながら見立てを楽しむ。

4　見立てという切り口から日本の文化を総覧すると、その理解なしに日本文化の真の理解は得られないと言ってよいほど、見立ての表現は、数多く存在する。

5　私たちの祖先は、大陸文化を移入して以来、徐々に独自の美意識に目覚めて日本文化を作り上げてきた。その中でも、特に日本文化に大きな影響を与えたのが見立てであったと言える。日本文化には、見立てのかたちに託した美学が多く息づく。日本人の日常生活には、古くから、縁起を担（かつ）ぎ、祈願を込めた様々な見立てのかたちが取り入れられている。単に形状が似ているという理由で、また、色や語呂（ごろ）合わせから、祝意を表すものも多くある。

6　正月のおせち料理を見ても、見立てのオンパレードである。昆布は巻き物に似ていることから、文化・教養を表す。きんとんは金色で、［B］、財の見立てである。黒豆はまめまめしく働くという語呂合わせから勤労を、数の子は子宝を、鯛（たい）は「めでたい」から、とい

うように見立てづくしである。

7 茶の湯の茶室は、千利休（せんのりきゅう）(注1)が草庵（そうあん）と呼んでいるように、簡素な造りであった。利休は、できる限り③<u>野趣</u>に富んだ演出を心がけ、壁はわらがむきだしの荒壁のままで、天井にはいぶ(注2)したすす竹を、床柱にはゆがんだままの木を用いた。さながら洞窟（どうくつ）のような風情（ふぜい）である。これらはすべて、茶室という閉じられた住空間に、大自然の姿を再現するための演出と言える。

8 このように、④<u>日本人は、古くからありとあらゆる見立てに囲まれながら生きてきた</u>と言ってもよいだろう。

9 先に、おせち料理における見立ての例を見た。おせち料理にとどまらず、日本料理には、見立てを目で楽しみながら味わうといった、他国にはあまり見られない料理の慣習がある。色とりどりの旬（しゅん）の食材と陶器や漆器などによる、かたちや色柄の組み合わせは見事というほかない。

10 最近、アニメ、ゲームなど、日本発の大衆文化が「クール・ジャパン」(注3)として世界中から好感をもって受け入れられている。クール・ジャパンの流行によって、伝統的な日本文化が世界から注目をc<u>浴び</u>ているが、このことには日本料理も一役買っている。日本料理は、色かたちや盛りつけに心を砕いており、食後のスイーツも、和菓子ならば、四季おりおりの花鳥風月に見立てた細工や工夫が見られ、情緒深さを感じさせてくれる。

11 このように、日本独自の見立てという美意識は、対象をストレートに風流とかきれいなどとは表現せず、別のものの様子をその対象に見立てることによって間接的に美を表現する高度な方法で表されてきた。この間接的な方法によって表されてきた見立てという美意識は、日本人がもっている粋（いき）という美意識につながっているのではないだろうか。

12 粋は、上品で優雅な感覚の上に、あでやかさとしゃれ心がとけ合って生まれた日本人の美意識であり、私たちの祖先は、生活の中に、常に粋を求め続けてきた。季節の花を生け、四季の花々の文様でd<u>飾ら</u>れた衣装を身に付け、色やかたち、素材などを楽しむ食器で食事をする。自然の美を身の回りに再現して見立てを楽しむことに心を砕いて生活をしてきたのである。

13 今、見立ての粋という日本人の美意識は、現代ファッションやデザインなどに生かされ、魅力的なメイド・イン・ジャパンが生み出されている。現在、日本文化が世界から注目を浴びていることには、こうした日本人の美意識が深く関与しているのではないだろうか。

（三井秀樹「かたちの日本美　和のデザイン学」より）

（注１）草庵＝わら、かやなどで屋根をふいた小さな家。
（注２）いぶしたすす竹＝煙を当ててすすで黒くした竹。
（注３）クール・ジャパン＝海外で評価されている日本文化を指す言葉。クールは、格好がよい、すばらしい、などの意味。

1　══線a「見」、b「用い」、c「浴び」、d「飾ら」の動詞の中から、活用の種類の異なるものを一つ選び、その記号を書け。また、一つだけ活用の種類が異なるものの活用の種類として適当なものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号を書け。

ア　五段活用　イ　上一段活用　ウ　下一段活用　エ　カ行変格活用　オ　サ行変格活用

異なるものの記号 [　　]　活用の種類の記号 [　　]

2　3段落の A 、6段落の B にそれぞれ当てはまる言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書け。

ア　A　さらに　B　むしろ
イ　A　さて　B　なぜなら
ウ　A　しかし　B　いわば
エ　A　また　B　すなわち

[　　]

3　2段落の――線②「多岐にわたって」とあるが、「多岐にわたる」の意味として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書け。

ア　他との違いがきわ立っている。
イ　大勢の人から期待されている。
ウ　いろいろな方面に及んでいる。
エ　想像できる範囲を超えている。

4　7段落の――線③「野趣」の「野」は、「人の手が加わっていない」の意味で使われているが、漢字の「野」には、そのほかに「ⓐ広々とした土地」「ⓑ荒っぽい」「ⓒ範囲」「ⓓ大それた」などの意味がある。次のア～エの熟語のうち、「ⓒ範囲」の意味で使われている「野」を含むものを一つ選び、その記号を書け。

ア　粗野　　イ　視野　　ウ　野草　　エ　野望

5　2段落の――線①「見立てとは、あるものを別のものになぞらえることである。」について、次の(1)、(2)の問いに答えよ。

(1)　本文に述べられている「枯山水」「茶の湯」の見立てについてまとめた次の表の［a］、［b］に当てはまる最も適当な言葉を書け。ただし、［a］は1〜4段落の文中から、［b］は5〜8段落の文中から、それぞれ**三字**でそのまま抜き出して書くこと。

〈何を何に見立てているか〉

枯山水の場合	「石」を「山」に、「砂や小石」を「［a］」に見立てている。
茶の湯の場合	「茶室」を「［b］」に見立てている。

a □□□

b □□□

(2)　「見立て」について、本文の趣旨に添って述べた次の文章の［c］、［d］に当てはまる適当な言葉を書け。ただし、［c］は、8〜13段落の文中の言葉を使って、**十五字**以上**二十字**以内で書くこと。また、［d］は、最も適当な言葉を、8〜13段落の文中から**十字**でそのまま抜き出して書くこと。

見立てとは、日本文化に大きな影響を与えてきた日本人の美意識である。この美意識は、情景や季節の風物などを［c］のではなく、それとは異なるものを用いて［d］ことによって表されてきた。

c □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

d □□□□□□□□□□

6　[8]段落の――線④「日本人は、古くからありとあらゆる見立てに囲まれながら生きてきた」とあるが、日本人の生活の中に多くの見立てが存在するのは、日本人が、昔から、衣食住の様々な場面で知恵を絞り、工夫を重ねてきたことによる。日本人は、どのようなことに知恵を絞り、工夫を重ねてきたのか。最も適当な言葉を、[9]～[13]段落の文中から**二十一字**でそのまま抜き出して書け。

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□（こと。）

7　本文に述べられていることと最もよく合っているものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書け。

ア　黒豆や鯛は、色や形状のよさから、縁起のよいものとしておせち料理に取り入れられている。
イ　日本の伝統文化が世界に認められたことで、アニメなど、日本の大衆文化が注目され始めた。
ウ　見た目の美しさ以上にその上品な味付けにより、日本料理は人々から高い評価を受けてきた。
エ　現代の日本のファッションやデザインには、日本人が求め続けてきた粋の心が息づいている。

□

【愛媛県】

Step 2・3

二　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

言葉遣いも大事ですが、もっと大切なのは、心です。

いくら「〜でございますわよ」などと丁寧な言葉を使っても、つっけんどんな言い方をしたら、冷たい言葉として響きます。

逆に、A<u>たとえ少々</u>言い回しが間違っていても、思いやりに満ちた言い方ならば、相手の心にB<u>温かく</u>届くものになるでしょう。

言葉以前に、相手にどのような心で対するか、その気遣いや姿勢を見つめ直すことが、①<u>良い言葉遣いを生み出します。</u>

確かに、言葉が伝えるものは情報です。しかし、言葉は単に情報が通じればいいというものではありません。〝互いに気持ちよく言葉を交わすことができるようにしよう〟――最近、そういう気持ちが薄れ、②<u>ぞんざいな</u>言い方をしても、まったく悪いと思っていない人を見掛けますが、とても悲しくなります。

言葉遣いに配慮することは、相手を思いやる気遣いから生まれます。言葉は「形」ですが、その元にある心遣いが、重要なのです。

（Ｉ）適切な言葉遣いができる「会話の達人」になるためには、C<u>やはり</u>努力の積み重ねが必要です。その第一歩は、言葉遣いに意識的になること。自分の言葉はもちろんのこと、他人の言葉遣い、書物やメディアなどに出てくる表現も意識することです。そして、D<u>特に</u>人とやりとりする中から大いに学び、改善すべきところは改善し、分からないことは辞書などで調べるなどして、言葉遣いを磨くことです。

言葉遣いを良くするためには、やはり敬語の使い方がポイントになります。

敬語といっても、丁寧語、尊敬語、謙譲語、また丁重語、美化語という分類もあり、使い方のルールや仕組みがあります。これらを身に付けていく上で大切なことは、二つの基本を押さえておくことです。

第一に、敬語は［③］表現であるということです。そして、第二に、敬語は人と人との距離を保つための表現であるということです。

第一の点について、例えば「お洋服」と言いますが、これは服を敬って言っているのではなく、持ち主を敬っている表現です。また、行

くの尊敬語で「いらっしゃる」と言いますが、これも行くという行為ではなく、行為する人を敬っている表現です。「あなたのお洋服」とは言っても、「お前のお洋服」とは言いません。「先生がいらっしゃる」とは言っても「あいつがいらっしゃる」とは言いません。これは、主語と述語の不整合というよりも、〝お前〟とか〝あいつ〟呼ばわりする人は、そもそも敬っていないので、その持ち物や動作なども敬語の対象にはならない、ということです。

第二の点ですが、敬語は、敬うべき人に対してだけ使うものではなく、対等・水平の関係の人に対しても用います。敬語の本質は、相手との距離を保つことにあるのです。

例えば初対面の人には、まずは互いに敬語を使って会話します。これは、知らない者同士、なれなれしくしてはいけない間柄ですから、敬語で距離を保つわけです。そして、学校でも職場でも近所でも、親しくなるにつれて、うち解けた言葉遣い、敬語を使わない会話へと変化していきます。

〝です・ます調〟の言葉遣いを、そんなに早くやめていいのか、あるいは、これ以上続けてよいものか、よく相手や周囲の状況を考えてタイミングを計る、そういう聡明（そうめい）さも備えたいものです。

敬語表現を使いこなせば、相手との距離を縮めたり伸ばしたりすることが可能になります。また言葉の変化に敏感な人は、人との距離感も上手にコントロールできるのです。

（北原保雄「日本語の常識アラカルト」より）

Step 2

1　本文中のA～Dの━━を付けた語のうち、一つだけ他と品詞の異なるものがある。その記号を○で囲みなさい。

A
B
C
D

Step 2

2　①良い言葉遣いを生み出しますとあるが、本文中で筆者は、良い言葉遣いを生み出すためには、何が重要であると述べているか。その内容についてまとめた次の文の[　]に入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、本文中から**十字**で抜き出しなさい。

良い言葉遣いを生み出すためには、言葉そのものも大切であるが、その元にある[　]や相手に対する姿勢がより重要である。

Step 2

3　②ぞんざいなとあるが、次のうち、このことばの本文中での意味として最も適しているものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア　落ち着きのない　　イ　分かりにくい　　ウ　無礼な　　エ　思わせぶりな

ア　イ　ウ　エ

Step 2

4　次のうち、[③]に入れるのに最も適しているものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア　主語に用いるのではなく、つねに述語に用いる
イ　モノや行為を敬うのではなく、あくまで人を敬う
ウ　モノを対象とするのではなく、行為や動作を対象とする
エ　敬うべき人にだけ使うのではなく、対等・水平の関係の人にも使う

ア　イ　ウ　エ

Step 3

5　本文中で筆者は、対等・水平の関係の人に対してどのように敬語表現を使い分けていけばよいと述べているか。その内容についてまとめた次の文の［a］に入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、本文中から**八字**で抜き出しなさい。また、［b］に入る内容を、「敬語」という語を用いて、具体的に**六十字程度**で書きなさい。

［a］を考慮しながら、［b］というように言葉を使い分けていけばよい。

a

b

Step 3

6　本文中のⅠで示した箇所では、適切な言葉遣いができるようになるための努力について、筆者の考えが述べられています。この筆者の考えをふまえて、あなたなら、適切な言葉遣いができるようになるために、今後どのようなことに取り組んでいきたいと考えますか。次の条件1・2にしたがって、あなたの考えをあとの原稿用紙に**三百字以内**で書きなさい。

条件1　最初に、あなたやあなたの周りの人たちの言葉遣いに対するあなたの考えを書くこと。

条件2　次に、最初に書いたあなたの考えをふまえて、あなたが今後取り組んでいきたいことを一つあげ、その取組みが適切な言葉遣いにどのようにつながるのかについて書くこと。

・原稿用紙の正しい使い方にしたがって書くこと。
・題名や氏名は書かないで、本文から書き始めること。

100

【大阪府】

300

200

第五講　論理的文章の読解④

Step 1

一

解答

1、(異なるものの記号) d (活用の種類の記号) ア　2、エ　3、ウ　4、イ　5、(1) a、大海原　b、大自然　(2) c、ストレートに風流とかきれいなどと表現する(20字)(同意可)　d、間接的に美を表現する　6、自然の美を身の回りに再現して見立てを楽しむ(こと。)　7、エ

解説

1、「ない」をつけると、直前の音が「ア段」の音になるのが五段活用、「イ段」の音になるのが上一段活用、「エ段」の音になるのが下一段活用である。「来る」はカ行変格活用、「する」はサ行変格活用である。それぞれに「ない」をつけると、aは「見ない」、bは「用いない」、cは「浴びない」、dは「飾らない」となる。

2、Aでは、「枯山水」と「落語」という二つの例を並べて挙げている。Bでは、前の「金色」を「財」と言い換えて説明している。

3、「多岐」は、多方面に物事や道筋が分かれていることをいう。

4、アは、荒々しく、洗練されていないこと、イは、目で見える範囲のこと、ウは、野原に生えている草のこと、エは、身の程を考えない望みのことである。

5、(1)「枯山水」の見立てについて、「石は山を…表現する」と述べられている。また、「茶の湯」の見立てについて、「茶室という閉じられた住空間に…再現する」と述べられている。(2)「日本料理」を例に挙げて説明した後、「日本独自の見立てという美意識」についてまとめている。

6、12段落で、「季節の花を生け…食器で食事をする」という「衣食住」において、日本人が「粋」を求め続けてきたことを説明して

いる。「知恵を絞り、工夫を重ねて」と同じ意味を表す「心を砕いて」という表現に着目する。

7、⑬段落に「今、見立ての枠という…デザインなどに生かされ」と述べられている。

Step 2・3

二

解答

1、B　2、相手を思いやる気遣い　3、ウ　4、イ　5、a、相手や周囲の状況　b、なれなれしくしてはいけない相手には敬語を使った会話をし、親しくなるにつれてうち解けた言葉遣いや敬語を使わない会話をする（59字）（同意可）

6、（例）私や友人たちは、敬語を使うことが苦手で、先生や目上の人に対しても、友だちのような言葉遣いをしてしまうことがあります。また、相手の気持ちを考慮しないで、自分の言いたいことをそのまま言ってしまうこともよくあります。これは、相手に失礼なだけでなく、相手の気持ちを傷つけてしまうことにもなります。だから、私は、今後、相手がどういう立場の人か、こういう言い方をされたらどういうふうに思うかを考え、適切な敬語を使うとともに、人の気持ちを思いやる言葉遣いをすることに取り組んでいきたいと考えています。そうすることで、人との距離感をうまくコントロールし、相手の心に伝わる適切な言葉遣いができるようになると思います。（298字）

解説

1、活用のない自立語で、用言を修飾する副詞と、活用のある自立語で、言い切りの形が「〜い」となる形容詞を区別する。

2、「言葉」以前に、「相手に…その気遣いや姿勢」を見つめ直すことが、「良い言葉遣い」を生み出すと述べている。「言葉」について説明したあとで、「言葉遣いに配慮することは…から生まれます」とし、言葉は「形」だが、「その元にある心遣い」が重要であるとまとめている。

4、「お洋服」という言い方は「服を敬って言っているのではなく、持ち主を敬っている表現」であり、「いらっしゃる」という言い方は「行くという行為ではなく、行為する人を敬っている表現」であることを表したことばが入る。

5、ａ、敬語表現の使い分けについて、「〝です・ます調〟の言葉遣いを…考えてタイミングを計る」としている。ｂ、「初対面の人には、まずは互いに敬語を使って会話します」とし、そして「親しくなるにつれて…と変化していきます」と述べている。